

研究者リーダーシップ・プログラム

「第2回 キャリアについて考える」参加レポート

今回、菊池先生と財津先生から「キャリアについて考える」をテーマに、貴重なご講話をいただきました。これまで私は、アカデミアにおけるキャリア形成について深く知る機会が少なく、自身の将来をじっくり考える時間も十分に取れていませんでした。そのような中で、先生方のお話から多くの示唆を得ることができました。特に印象に残った点について、以下にまとめます。

まず、菊池先生のお話では、タイムマネジメントの重要性が強く印象に残りました。予定を詰め込みすぎないこと、人に仕事を適切に任せること、そして計画を立てるのに時間を確保すること。これらによって生まれた時間の中で、自分が本当にやりたいこと、今できることを見極めるという姿勢は、若手研究者の私にとって非常に大切な視点だと感じました。

次に、財津先生のお話では、人生は点と点の繋がりであるという言葉が心に残りました。場所や環境だけでなく、新しい研究分野に飛び込む勇氣を持つことの重要性を強く感じました。私自身、学位取得後にポスドクとして異なる研究分野へ挑戦しました。当初は新しいことを学ぶ日々を楽しさを感じていましたが、次第にその選択がキャリア形成において正解だったのかと悩むこともありました。しかし、今回のお話を通じて、その経験こそが新しい道が切り開く原動力になると実感することができました。今では、異なる分野を経験した自分だからこそ生み出せる価値があると前向きに捉えています。

また、お二人のお話に共通していたのは、自分を客観的に見つめる姿勢の大切さです。常にカメラ・鏡で自分を映すように、今の自分はどうか見えるか、なりたい自分と比べてどうかを意識することで、日々の行動や思考を省みることの重要性を学びました。

今回の研修を通じて、研究者としてのキャリア設計を考えるうえで多くのヒントを得られました。学位取得から2年、助教として着任して2か月というまだ浅いキャリアですが、今後の自身がどうありたいか、どうなりたいかを明確に描くきっかけとなりました。今回の学びを糧に、目指すキャリアに向けて今後も研鑽を重ねていきたいと思います。

(夏原大悟・名古屋大学大学院工学研究科 助教)